

「森と水と命の惑星」国際会議



塾長 梅内 拓生

～地域と世界の心と魂を詠む～

(送られる人迎える人)
齊藤 陽子

花好きな伯母の柩は満開の桜の下行く花びら乗せて

復活の三鉄電車の運転手白手袋に涙ふきたり

親しかった伯母を野辺おくりした昨日、きょうは三鉄電車の開通式、命の営みは日々変化します。

返句
伯母おくり 日あらたまれば 三鉄電車

(美と毒)

休石庄太郎
夏光る水平線の彼方まで羅刹の海のあれば悪夢か

梅雨湿り清楚に白き三輪なぜに君はドクダミなりや

美も毒も輪廻転生の中にあります。一瞬の夢の姿です。

返句
夏光る 海にも花にも美毒あり

(夢と現実)

村上 美江
寅さんの映画始まり笑ひ合ふ仮設にゐること暫し忘れて

線路なき殺風景なふる里をキラキラ走るBR Tの赤いバス

寅さんの映画には昭和の下町の人情味が溢れており、映画の世界に引き込まれます。映画が終われば、殺風景な暗い明りの町の線路跡に風が吹いております。

返句
寅さんや 映画終われば 線路風

(送られる人迎える人)、(美と毒)、(夢と現実)、これらの世界は蕪村の宿かさぬ火影や雪の家つづき、と響き合っております。

(般若心経と現代)

青梅今井病院、青梅市の私立の学習塾の「こがわら学院」、そして西多摩新聞が協力して地域文化価値教育活動を展開し、「にしたま文華塾」として西

多摩新聞のコラムに掲載している。

この活動に注目した小田急沿線に住む般若心経研究グループの老人たち数人が青梅今井病院を訪ねてきた。このグループが研究している般若心経と我々が行っている地域文化教育活動とが、どのように関係しているのかに興味を持って彼らを迎えた。

話をしてみると、彼らは自分たちの老後のケアをしてくれる施設を探していることが分かった。この時に、般若心経が、現代の科学技術世界と深くかかわっていることに気がついた。

「梅下村塾」が旧気仙郡をはじめとする東北地方が縄文蝦夷の文化を引き継いでおり、その文化価値の奥には世界の他の国々と共有するものがあり、そのひとつが、煩惱の限らない拡大すなわち、エゴイズム、身勝手、経済、軍事などの帝国主義的拡大へいかに対応するかの知恵である。このことを、般若心経グループに話したが、彼らがどうとらえたかは別の話である。縄文文化は文字を持たなかったが、残された膨大な土器に、宗教、芸術、自然観などの生活価値意識がにじ

みでっており、現代社会が生き生きと生活するための深い知恵に触れることができる。

この知恵に触れることこそ「般若心経」を身をもって感ずることであり、それは、芭蕉を始めとする俳句の世界にも通じている。さらには、枕詞や季語という、短歌や俳句の約束事を越えて、現代のキャッチコピーの世界にも通じている。このことに気がついたのは英訳の「般若心経」、英訳の「奥の細道」に目を通した時である。

異なる文化や言語に触れてこそ、世界に共通する心の世界を感ずることができると思った。そのひとつが「色即是空」、「空即是色」と芭蕉の閑さや 岩にしみ入る 蝉の声 古池や 蛙飛びこむ水のおとである。お釈迦様の話したサンスクリット語は分からないが、漢語の「色即是空」、「空即是色」は感じとれる。この流れに乗ると、芭蕉の世界は深く身にしみてくる。世界の言語は膠着語、屈折語、孤立語、抱合語の四つに分類されているが、これらの奥には共通する心の世界があることが感じ取れる。日本語は、まさに

この心の感受と創造に適していることは、海流、人流、文化流などの自然条件と文化交流などの歴史的条件から浮かんでくる。

梅下村塾は117回目の連載になるが、旧気仙郡の地域文化価値を世界と共有することを目指して、地域文化教育活動を続けたい。

(青春と地域文化の継承)

高らかに 声響かせる 一中生 地域住民
歌声が 響く君らの 希望のせ 保護者

合唱の 不協和音を なげく娘に かつての不真面目 深くわびる 保護者
子らの声 天に届けと 手をあわす 心込め歌う 生徒よありがとう 家族
一中祭 第九に勝る 歌声に 胸熱くして 拍手止まず 家族
合唱で 輝いていた シンデレラ 親の欲目か そこだけを見る 保護者
凜とした 子らの歌声 染み渡る 未来の岩手

明るい兆し

保護者、家族にも子どもたちの青春の思いは伝わって、地域の心に力を生んでおります。

返句

子らの声 天に響いて 力生む

青春のエネルギー、老熟のエネルギーを分かち合い、そこから新しい地域文化エネルギーを創造し、世界へ発信することへの挑戦は素晴らしいですね。

(東海新報記事から)

7月17日(水)の第1面に「住田町長選現職・多田氏が4選前々回選以来の無投票連続4期は町制施行後初 福祉向上に決意新た」が掲載されており、三浦佳恵記者の解説が載っている。多選に対する的確な解説に感心しながら、隣のコラムに目をやると、参議院選挙への6人の候補者の記事が載っている。

7月14日(日)の世迷言には数学者の藤原正彦氏の「危ない東京一極集中」が載っている。集中と分散、一と多、独占と共有、「般若心経の知恵」や「気仙の歴史の知恵」が求められる時代である。